

真田家の奥女中たち

江戸城において、將軍の御台所や奥女中の生活空間を「大奥」といいますが、各大名家の場合は、「御奥」と呼称されます。

今回は真田家に伝えられた史料のなかから、真田家の「御奥」そしてそこに生活する「奥女中」について、その一端をご紹介します。

① 職制と給与

真田家文書のなかには、奥女中の職員録ともいうべき「江戸御在所御奥向分限帳」【写真1】が残されています。それをもとに職名や人数、それに給与を表わしたものが下の表です。これは六代幸弘時代の寛政三（一七九一）年のもので、御表抱である幸弘付、幸弘室である真松院付、次期藩主幸専室の三千姫付、そのほか幸弘の息女である貴姫付や御部屋様と称される三千姫の生母付の奥女中など、64名が確認できます。

職制ですが、老女は奥女中のまとめ役、中老はその補佐的な役目、御側は主人の遊芸や学問の相手、御次は身の回りの世話、御小姓は主人の小間使い、御台所御仲居兼は茶の湯や食事係と考

えられます。その他さまざまな雑用を行なう御末、御借下女、御端下などがあります。こうした序列にそって給与が定められていました。

では、その給料はいかほどだったのでしょうか。

真松院付の老女をみてみましょう。切米は給与に当たるもので、その時の米価に換算して、金で支払われます。扶持は毎日の食用米です。「上一人」とあるのは本人が食する一年分の米です。「中一人玄米二人」は、米の等級は下がるものの、ほかに四人分の米が与えられたという意味です。つまり個人的に世話係も雇うことができたのです。采銀はおかず代などで、銀で支払われます。そのほか賞与でしょうか、

これらに渡って60疋が支払われています。これらの他に、十二月下旬には「御納戸払」といって、小袖などの衣類が与えられます。また、特別な任務についたときは、手当として衣装代やこぬかも与えられています。こぬかは肥料や漬物にも用いられますし、美肌効果もあって、布袋に入れて洗顔などにも用いられました。

(表) 真田家江戸奥女中の職制と給与

人数	老女	中老	御側	御小姓	御側格御次	御次	御台所御仲居兼	御仲居御台所兼	御次小姓	仲居	御末	御借下女	御端下
10	5人	3人	19人	4人	3人	10人	1人	1人	1人	5人	7人	4人	1人
切米	10両	7両	5両	5両		4両	3両	2両			1両2分	1両2分	
扶持	上1人中 2人玄米2人	上1人中1人 玄米1人	上1人 中1人	上1人 中1人		中白1人	中白 1斗2升	中白 1斗2升			中白 1斗2升	中白 1斗2升	
菜銀	月々45匁	月々34匁	月々30匁	月々 30匁		月々18匁	12匁	月々8匁 5分			月々7匁 5分		
賞与	2季300疋	2季200疋	2季200疋	2季200疋		2季100疋	2季10匁	2季10匁			2季銀7匁 5分		
幸弘付		7両	6両	5両	5両	4両							
切米													
扶持		中白2人	中白2人	中白2人	中白2人	中白1人						中白4升 4合4勺	
菜銀		月々20匁	月々17匁	月々 17匁	月々30匁	月々12匁						1匁6分 7厘	
貴姫付	10両		5両	5両		4両				2両	1両2分	1両2分	
切米	10両		5両	5両		4両				2両	1両2分	1両2分	
扶持	上白1人中 1人 玄米2人		上1人 中1人	上1人 中1人		中1人			中1人	中1人	中白1人	中白1人	
菜銀	毎月45匁		月々30匁	月々 30匁		月々18匁			月々 10匁	月々 8匁5分	月々 7匁5分		
賞与	2季300疋		2季100疋	2季100疋		2季100疋			2季 100疋	2季10匁	2季7匁 5分		
三千姫実母付						3両				1両2分			3分
切米													中白 1人
扶持						中白1人				中白1人			
菜銀						月々 7匁5分				月々5匁			5匁
三千姫付	10両	7両	5両	5両	5両	4両				2両	1両2分	1両2分	
切米	10両	7両	5両	5両	5両	4両				2両	1両2分	1両2分	
扶持	上白1人中 1人 玄米2人	上白1人中 1人 玄米1人	上白1人 中白1人	上白1人 中白1人	上白1人 中白1人	中白1人				中白1人	中白1人	中白1人	
菜銀	毎月45匁	月々34匁	月々30匁	月々 30匁	月々30匁	月々18匁				月々 8匁5分	月々 7匁5分		
賞与	2季300疋	2季200疋	2季200疋	2季200疋	2季100疋	2季100疋				2季10匁	2季7匁 5分		

注) 『寛政三年 江戸御在所御奥向分限帳』より作成。三千姫は中屋敷(南部坂)に居住、他は上屋敷(溜池)と考えられます。

②年齢と出身

女中奉公の際にとりかわす契約書ともいえる「奉公人請状」をみると、その出自は大名家臣、旗本、医者、町商人、百姓などさまざまですが、真田家の江戸御奥に出仕した真田家臣出身者は意外にも少なく、出身地は江戸広域にわたっています。

年代層をみると、老女や中老は30〜40代、御側女中は20代〜40代、御末は幅広く10〜40代となっています。

特に御小姓は行儀見習いの意味もあつたのでしょうか、武家や医者若年の娘がみられます。幕末期の例をあげると、大名牧野家家臣の娘・たけは11歳、両国に住む蘭学医師の養女・きのは13歳で奉公に上っています。

契約上の年季は十年ですが、現存する幕末頃の「御暇願」をみると、年季が明けぬうちに、縁談や家族の病気などを理由に辞めてしまうケースも少なくなかったようです。

③暮らしぶり

三千姫と幸専が婚姻により南部坂屋敷へ引き移るにあたって、六代幸弘は奥女中たちへ直々に心得を示しています。【写真2】

両親兄弟の病気の際の御暇願は、当人からの申し出は受けず、親類から御本々役へ差し出す事や、身元引請人である宿元からの使いと面会する時でも、

鍵番らが立ち会うことなど、詳細な規定が記されています。

緊急の御暇願は老女にその決定が任されていたましたが、その他、奥女中の行ないの善悪については御守役や御本々役とよく話し合つたうえで決定し、場合によっては上屋敷の幸弘室・真松院へうかがいをたて、判断を仰ぐことなどが記されています。奥女中の諸々の最終決定権は幸弘室に委ねられていたことも注目されます。

さて、奥女中の暮らしぶりの一端を窺わせる一文があります。「長局において下女等が富札を取り用いているらしいので、必ずやめさせること」というものです。下女たちが隠れて富くじを買い求めていたことがわかります。富くじは現在の宝くじのようなもので、主に寺社が興行を許されていました。出入りが限られ、窮屈そうにみえる大名家の奥勤めですが、息抜きの場を求めてちよつと「ハメをはずした」奥女中の姿をも想像できるのです。

④生活空間

「御奥」を大きく分けると、奥方や奥女中の生活空間である「御殿向」、奥向の男性の役人が勤める「広敷向」、そして奥女中の住居である「長局向」に分けられます。

【写真3】は、後に七代藩主となる幸専と三千姫が結婚し居住する際の南

部坂中屋敷の図面です。【写真4】は溜池上屋敷、【写真5】は深川小松町下屋敷の図面で、いずれも18世紀後半の幸弘時代のものです。

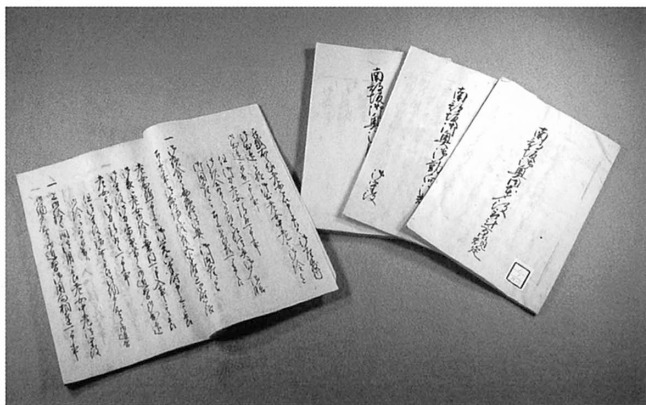
さて、南部坂中屋敷ですが、中央の塀を境に、向かって左が「御表」右が「御奥」と考えられます。右下には御奥支配詰所、鍵番、仲間部屋などがあり、「広敷向」であることが確認できます。おそらく右上が「御殿向」で、「長局向」は描かれていません。

幸弘が示した規定には、奥女中らへ来客ある時は鍵番などが声高に呼び、必ず立会い人をつけることや、五菜口には呼子番として下女二人を交替で立て、奥女中への用件は下女が伝達することなどが示されています。五菜口とは、長局向と広敷向との境にあつた戸口のことです。それは五菜が奥女中の外への使いなど下働きをする男性のことを指し、その窓口であつたことからその名があると考えられます。

このように同じ「御奥」のなかにあつても、男性、女性の奉公人の生活空間は厳密に仕切られ、その行動範囲は極力制限されていたのです。

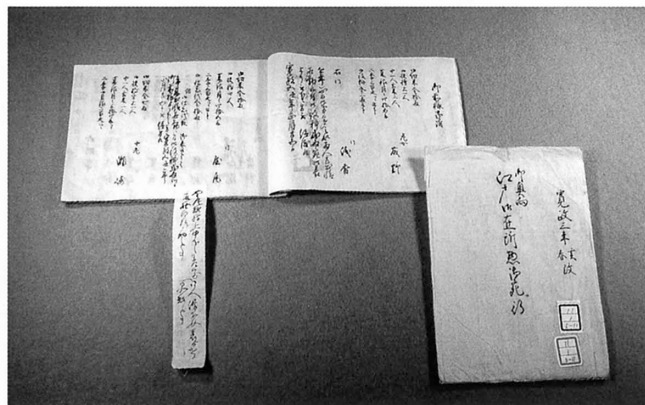
そのようななかで、さまざまな雑務をこなす下女たちは一番、外部との接触が多かつたといえるかもしれません。

(文責 北村典子)



【写真2】『南部坂御奥御勤方御暮方御極帳』

6代藩主幸弘が、娘・三千姫と智養子・幸専の婚姻により南部坂中屋敷へ引き移るにあたって、御奥の役人や女中に対し、守るべき取極めを記したものの。



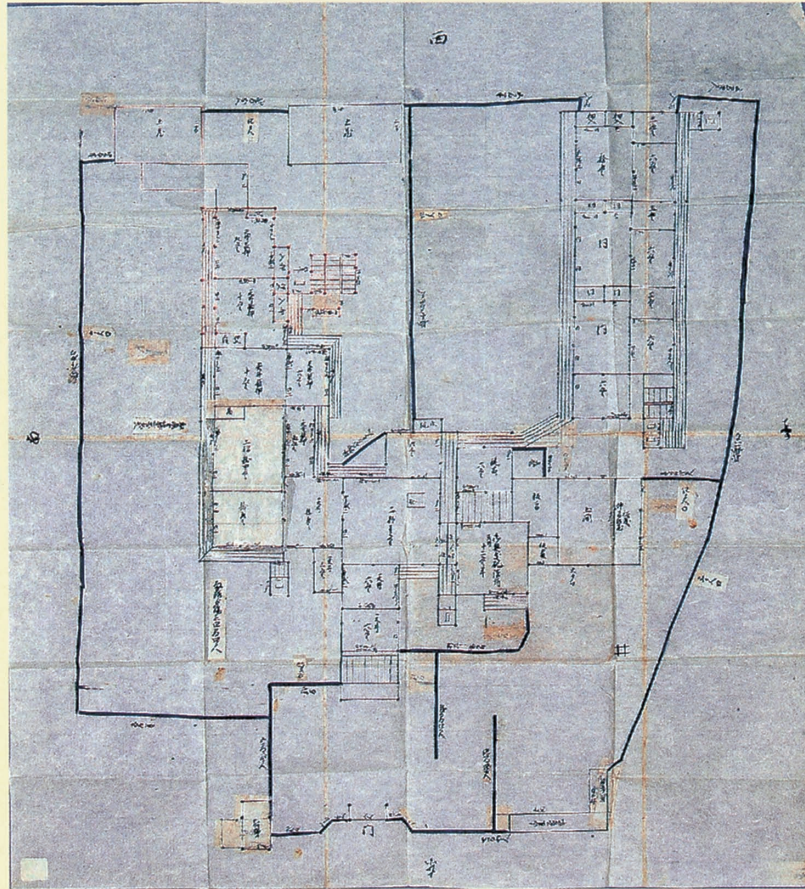
【写真1】『寛政三年江戸御在所御奥向分限帳』

6代藩主幸弘時代の江戸奥女中の職員録ともいべきもの。

真田家の江戸屋敷 絵図

<御表>

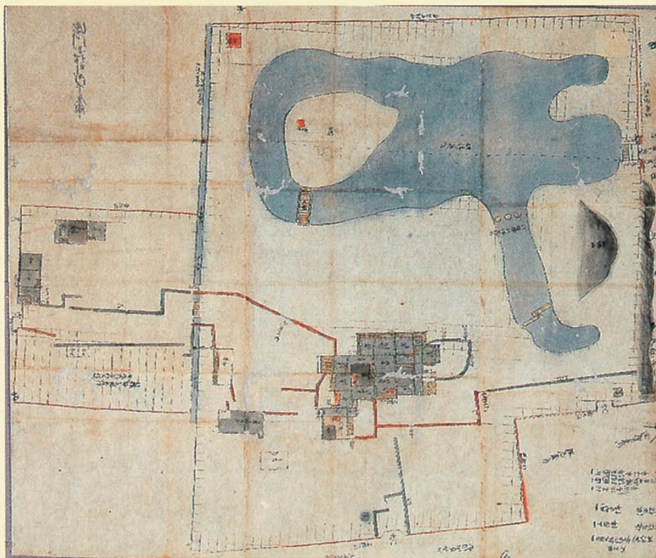
<御奥>



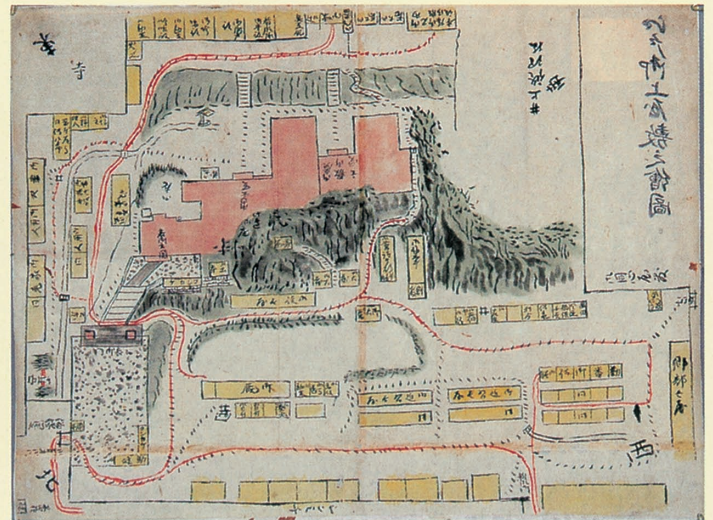
御殿向

広敷向

【写真3】『新御用屋敷絵図面』
幸専と三千姫が結婚した際の住居である南部坂中屋敷の図面。幸専が婿養子として入る際に持参した普請金で改修を行なっている。「御表」の朱書きの部分は普請をした箇所。



【写真5】『深川小松町御下屋敷絵図』（大平資料）
深川小松町下屋敷は、寛政8(1796)年に他家と切坪で屋敷地の交換をしています。その記載があることから、その頃描かれたものと考えられます。



【写真4】『江戸上屋敷絵図』（大平資料）
「泰姫御守役」など、6代幸弘の息女の名がみえることから18C後半頃の「溜池上屋敷」の絵図面と考えられます。藩士の長屋などをはじめ屋敷地全体の配置がうかがえる資料。